

醸造用ぶどう栽培において、片側誘引短梢せん定栽培 (改良スマート仕立て) は果実の高品質化に有望である

果樹試験場

1 技術の要約

醸造用ぶどう栽培における片側誘引短梢せん定栽培(改良スマート仕立て)では、糖度及び果皮色素量は自然形仕立てと比べて優れ、作業時間は、自然形仕立てと同程度です。

2 技術の内容

片側誘引短梢せん定栽培(図1、写真1)は、糖度及び果皮色素量は自然形仕立てと比べて高く(図2、図3)、品質が良い原料用ぶどうの生産が可能です。10a当りの作業時間は、自然形仕立てと比べ同程度です。「メルロー」においては、10a当り目標収量を1.7トンとすると、収量構成要素は、1m²当り新梢数5.6本、新梢当り着房数1.5房、果房重200gです。

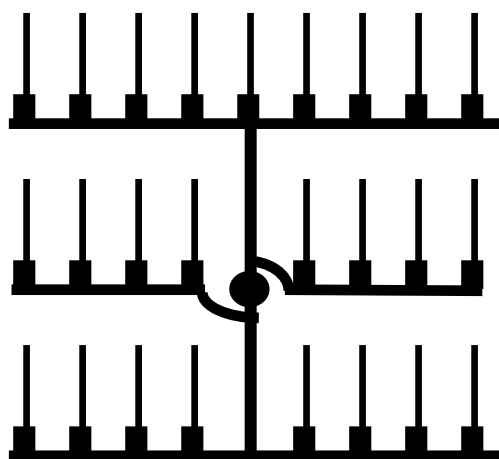


図1 片側誘引短梢せん定栽培基本樹形



写真1 片側誘引短梢せん定栽培外観

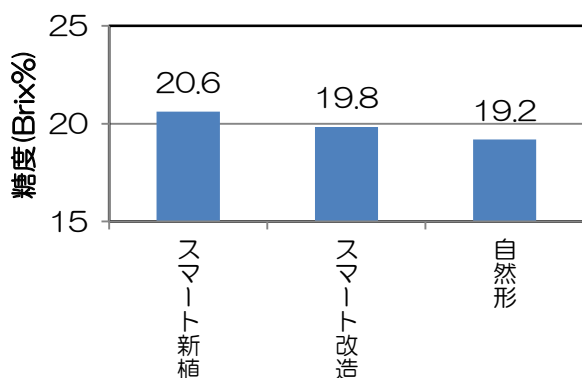


図2 仕立て法の違いが糖度に及ぼす影響

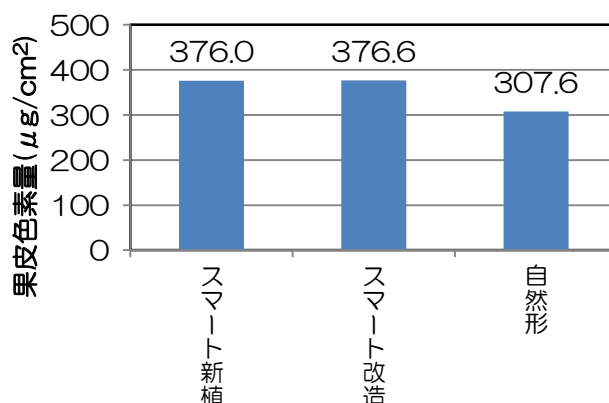


図3 仕立て法の違いが果皮色素量に及ぼす影響